



〔海の状況 (5/16~6/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年より平年並み (平年差±0.5℃) ~はなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて概ね平年並み (平年差±0.5℃) ~はなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図2)

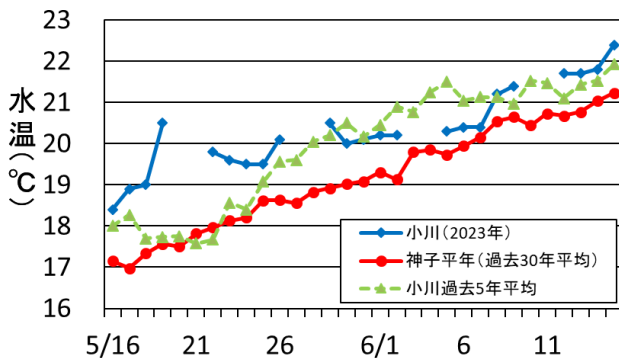


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

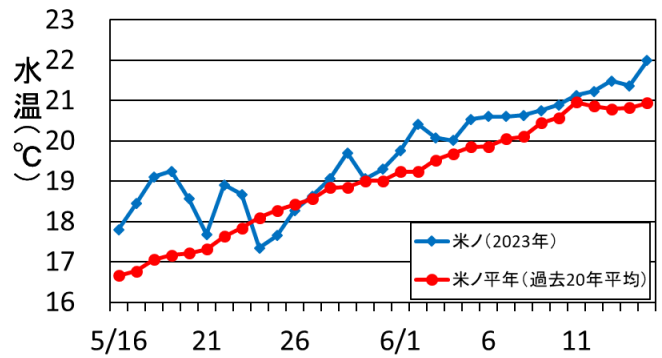


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

※小川過去5年平均は2018年~2022年の小川地先の平均値である。

〔若狭湾および周辺海域の海況：5月〕

5月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、昨年同時期に比べ、表層(水深0 m)では、若狭湾沿岸で16℃~18℃の範囲が小さくなっていた。水深50 mでは、若狭湾沖で12℃~14℃の範囲が大きくなっていた。水深100 mでは、若狭湾沖で12℃~14℃の範囲が大きくなっていた。水深200 mでは、若狭湾沖で6℃~10℃の範囲が小さくなっていた。(図3)

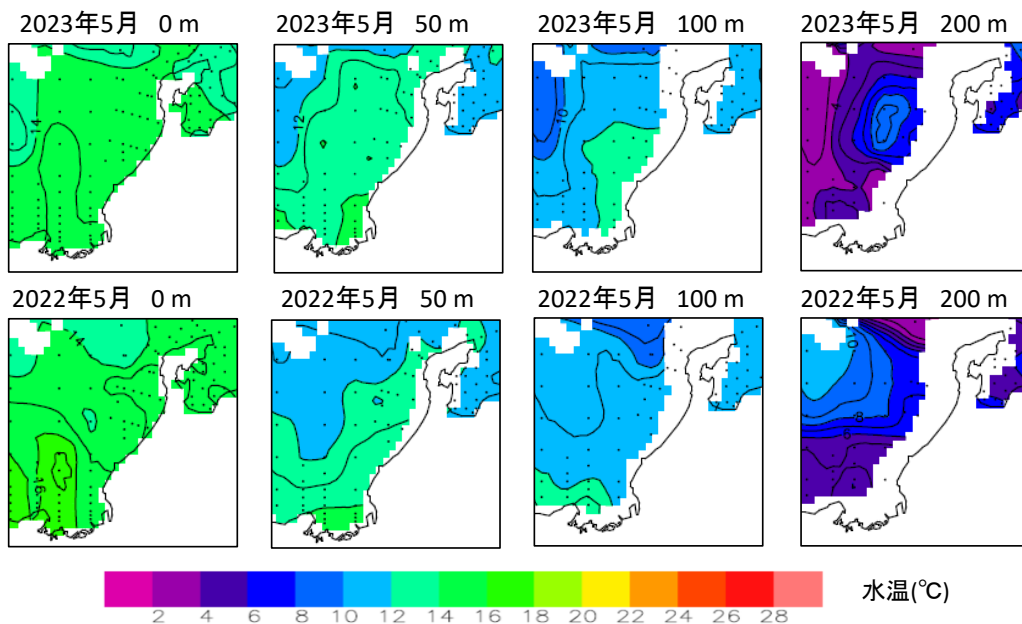


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

大型クラゲ情報

長崎県での初確認は2018～2021年は6月、2022年は7月でしたが、今年はまだ確認されておりません。福井県での確認情報も今のところありませんが、引き続き大型クラゲの動向を注視していきます。

(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

〔県内の漁模様：5月〕

2023年5月の県内の総漁獲量は1,078 tで、前年同月を20 t上回ったが、平年を470 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は809 tで、前年同月を150 t上回った。アジ銘柄、ブリ銘柄は大きく上回り、ツバス銘柄等は上回ったが、ワラサ銘柄、サワラ、トビウオ等は大きく下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は197 tで、前年同月を112 t下回った。その他カレイ、フグ類、ニギス等は上回ったが、ハタハタ、ホタルイカは大きく下回り、タコ類、アカエビは下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は72 tで、前年同月を17 t下回った。キダイ、ケンサキイカ、コウイカ等は上回ったが、スルメイカは大きく下回り、ヒラメ、メバル類等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(5月)

定置網	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
イワシ類	1,300	2,112	6,898	-812	-5,598
アジ類	122,337	34,792	108,771	87,544	13,566
（アジ）	111,380	26,812	83,063	84,569	28,317
（小アジ）	8,736	7,284	24,671	1,452	-15,935
（アオアジ）	2,220	697	1,037	1,523	1,184
サバ類	8,709	8,313	20,276	396	-11,567
マグロ類	2,169	2,216	2,326	-47	-157
ブリ類	542,901	416,029	613,642	126,872	-70,742
（ブリ）	361,683	135,305	194,849	226,378	166,834
（ワラサ）	83,496	181,036	112,704	-97,540	-29,208
（ハマチ）	1,941	32,889	30,775	-30,948	-28,833
（ツバス）	95,770	66,798	275,293	28,972	-179,523
ヒラマサ	1,820	3,290	5,527	-1,470	-3,708
サワラ	7,309	32,601	36,086	-25,292	-28,777
トビウオ	29,565	49,111	50,408	-19,546	-20,843
マダイ	18,054	26,845	21,384	-8,792	-3,331
その他タイ	3,736	2,905	2,034	831	1,702
クロダイ	2,071	2,962	3,003	-891	-932
スズキ	5,637	8,080	12,400	-2,444	-6,763
ヒラメ	1,074	2,612	2,046	-1,538	-973
フグ類	31,012	24,004	34,868	7,009	-3,856
アオリイカ	3,469	2,745	3,286	725	183
ケンサキイカ	12,690	15,940	10,018	-3,250	2,672
コウイカ	6,391	2,794	4,885	3,597	1,506
タコ類	1,139	828	667	312	472
その他	7,591	20,561	37,572	-12,970	-29,981
合計	808,972	658,740	976,099	150,232	-167,126

底びき網	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
ヒラメ	1,712	862	1,483	850	229
アカガレイ	47,476	50,586	86,660	-3,111	-39,185

底びき網	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
その他カレイ	20,189	13,134	21,853	7,054	-1,664
フグ類	8,735	4,262	2,923	4,473	5,813
ハタハタ	218	12,221	12,825	-12,003	-12,607
メバル類	1,216	743	1,087	473	129
ニギス	7,711	2,895	2,044	4,816	5,667
ケンサキイカ	621	354	462	267	159
ホタルイカ	18,315	91,437	161,839	-73,122	-143,524
タコ類	2,709	4,591	6,758	-1,882	-4,049
アカエビ	66,075	94,031	74,459	-27,956	-8,384
その他エビ	11,461	18,411	8,175	-6,951	3,286
その他	10,644	15,967	28,281	-5,323	-17,637
合計	197,081	309,497	408,850	-112,416	-211,768

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
ブリ類計	3,566	2,515	3,130	1,051	436
マダイ	1,735	2,220	3,459	-485	-1,724
キダイ	8,209	6,624	5,463	1,585	2,746
アマダイ	5,256	5,080	5,538	176	-281
ヒラメ	1,039	2,581	2,943	-1,543	-1,905
フグ類	679	1,590	459	-911	220
メバル類	1,344	2,805	3,207	-1,462	-1,863
スルメイカ	6,757	26,020	81,852	-19,263	-75,095
ケンサキイカ	3,836	992	1,006	2,844	2,830
コウイカ	3,315	1,593	3,664	1,722	-349
タコ類	17,591	15,400	20,624	2,191	-3,032
その他	18,678	22,050	31,672	-3,372	-12,994
合計	72,005	89,469	163,017	-17,465	-91,013

全漁法	(kg)				
魚種名及び銘柄	2023年	2022年	平年	前年差	平年差
合計	1,078,058	1,057,706	1,547,965	20,352	-469,907

※1 平年の値は2012～2021年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015～2022年の8年平均です。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

漁獲状況…石川県：5月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：5月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：5月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：5月中旬～6月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。）

石川県…定置網…マイワシ8.2 t、ブリ7.8 t、マアジ6.4 t、ガンド5.2 t、フクラギ・コゾクラ4.7 t

京都府…定置網…カタクチイワシ7.2 t、ブリ類3.7 t、スズキ2.9 t、サワラ類1.4 t、マアジ0.7 t

兵庫県…定置網…マアジ826.3 kg、マルゴ564.9 kg、ハマチ126.4 kg、スズキ102.0 kg、シロイカ23.2 kg

鳥取県…まき網…マサバ38.4 t、マイワシ15.1 t、マアジ8.2 t、ウルメイワシ5.5 t、カタクチイワシ0.1 t

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

イワガキの早期採卵

【はじめに】

現在、養殖イワガキは、福井県下で出荷サイズに育つまでには2年以上の長い養殖期間を要します（一般的な中サイズ：235～300g）。そのため現場からは、出荷までのサイクルを早めたいという声が上がっています。そこで水産試験場では、イワガキの養殖期間を短縮し、1年で（生まれてから翌年の夏に）商品化できる種苗を生産することを目的として、早期採卵技術の開発を進めています。

【早期採卵の試み】

早期採卵とは、通常よりも早い時期に採卵を行なって種苗生産を始めることで、早い時期から成長させて養殖年数を短縮する手法です。

通常の種苗生産では、天然イワガキの産卵期である7～9月に、成熟した親貝を選別して採卵を行ってきました。早期採卵では、2月から親貝を加温飼育することで成熟を誘導しました。20℃で肥育する期間を21日間、その後に25℃で成熟誘導する期間を14日間設けた結果、3月の時点で写真1のように、生殖腺（白色部分）を厚く成熟させることができました。これらを親貝として用いることで、種苗生産に十分な量の卵（2800万粒）と精子を回収でき（写真2）、受精させることができました。その後、幼生時も加温しながら成長速度と生残を維持させ、3月中旬から4月上旬にかけて採苗を行いました（写真3）。現在、推定13,000個体の稚貝を海面にて飼育中です（6月1日時点での殻高は約1cm）。今年度の早期採卵試験において、通常よりも4ヶ月以上早く採卵することに成功し、種苗を生産できました。

【今後の計画】

今後、早期採卵種苗が通常種苗と比べてどれだけ大きくなるか、成長をモニタリングする予定です。

また、種苗の配布時期や配布サイズ、夏の高水温による生残、食害生物による被害を調べる必要があることから、各地区へ一定数ずつ垂下し、試験を行いたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

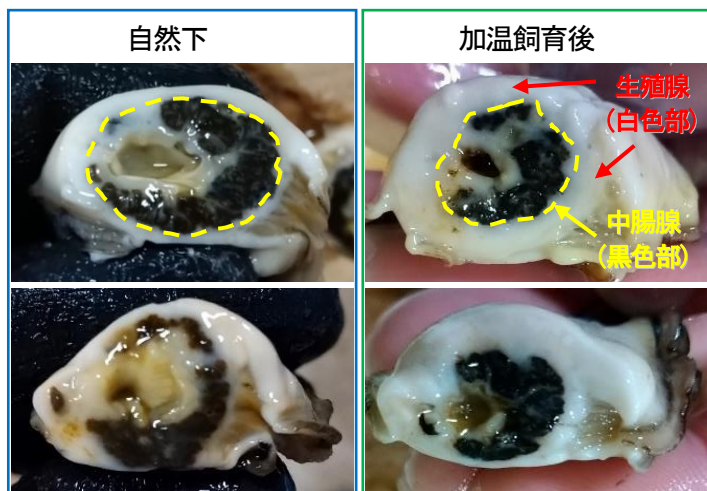


写真1 3月時のイワガキ断面



写真2 採卵の様子



写真3 イワガキ稚貝（4月）